

会社概要 (2012年9月30日現在)

商号 栗田工業株式会社
(Kurita Water Industries Ltd.)
本社所在地 東京都中野区中野四丁目10番1号
中野セントラルパークウエスト
(2012年10月1日より)
設立年月日 1949年7月13日
資本金 134億5,075万円
従業員数 1,569名(連結4,742名)
ホームページアドレス <http://www.kurita.co.jp/>
お問い合わせ先 経営企画室 企画部 広報課
TEL.03-6743-5007

株主メモ

事業年度 毎年4月1日～翌年3月31日
定時株主総会 6月
利益配当金受領株主確定日 3月31日
中間配当金受領株主確定日 9月30日
(中間配当を行う場合)
基準日 3月31日 (そのほか臨時に必要があるときに
は、あらかじめ公告いたします。)
公告掲載新聞 日本経済新聞
株主名簿管理人および
特別口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社
(電話照会先) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
フリーダイヤル 0120-782-031
(受付時間: 平日9:00～17:00)
(郵便物送付先) 〒168-0063
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社証券代行部
同取次窓口 三井住友信託銀行株式会社全国各支店

諸手続きお問い合わせ先 (住所変更、単元未満株式の買取請求、未払配当金の照会など)

- ・証券会社の口座に記録された株式の場合
株主様の口座のある証券会社にお申しください。
ただし、未払配当金の照会については、三井住友信託銀行株式会社(株主名簿管理人)にお申しください。
- ・特別口座に記録された株式の場合
三井住友信託銀行株式会社(株主名簿管理人および特別口座管理機関)にお申し出ください。



この冊子は、適切に管理された森林由来のFSC®認証紙に、植物油インキを使用して印刷しています。



2013年3月期 第3四半期 2012.4.1 ~ 2012.12.31

クリタ株主通信



栗田工業株式会社

【証券コード: 6370】

社長ごあいさつ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、
厚くお礼申し上げます。

2013年3月期 第3四半期 (2012年4月1日～2012年12月31日)

の事業概況についてご報告申し上げます。



代表取締役社長

中井 稔之

2013年3月期 第3四半期の業績について

当社グループを取り巻く市場環境は、製造業の生産拠点の統廃合や海外移転が継続し、設備投資も抑制、延期されるなど、大変厳しいものとなっています。

当第3四半期における連結業績は、受注高が前年同期比5.3%減の130,844百万円、売上高が同2.8%減の129,662百万円となりました。利益につきましては、営業利益が前年同期比25.4%減の14,617百万円、四半期純利益は同32.9%減の7,213百万円となりました。なお、固定資産売却益等の特別利益1,186百万円、投資有価証券評価損等の特別損失3,778百万円を計上しています。

当期の取り組みについて

当期は当社グループにとって、新たな方向を目指した変化がいくつかありました。

まず、2012年10月に本社を東京都中野区に移転しました。地震に対する安全性を確保するとともに、国内外の事業所やグループ会社とのテレビ会議システムの拡充など、コミュニケーションの促進が図られています。また同年11月には、筆頭株主として永年にわたりご支援をいただいていた伊藤忠商事株式会社から、公開買付けによる自己株式の取得を行いました。

中期経営計画「TA-14 (Take Action 2014)」の重点施策に対する取り組みも進んでいます。海外では、中国統括役員の設置やマレーシア営業所の開設を行い、「水処理薬品」「水処理装置」「メンテナンス」の連携を強化しています。国内でも「水処理装置」と「メンテナンス」の営業組織を統合するとともにグループ会社との協働を促進し、総合力を発揮した課題解決提案によって受注拡大に結びつく事例が出てきています。新商品・新事業については、食糧やエネルギーの分野の潜在的なニーズを掘り起こし、全く新しい市場の創出を目指します。

株主の皆様には、今後も一層のご支援を賜りますようお願いいたします。

2013年2月

特集 中期経営計画「TA-14」重点施策：新商品・新事業の創出

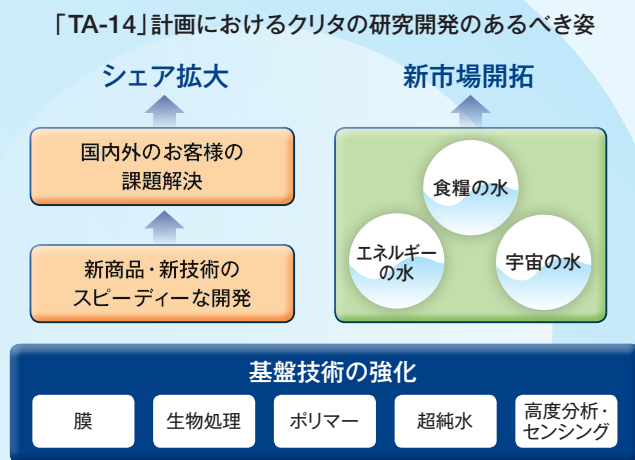
クリタの研究開発は、「水」を核とし、グローバルな視点から多面的なアプローチを行っています。

「TA-14」計画における研究開発の取り組み

クリタは、中期経営計画「TA-14 (Take Action 2014)」において、研究開発の強化に取り組んでいます。最終年度(2015年3月期)のあるべき姿として、

- グローバル事業の拡大に寄与する新商品・新技術開発
- 基盤技術の強化・深耕
- 水を核とした新事業領域の創出

の実現を掲げ、クリタグループのシェアの拡大と新市場開拓に貢献することを目指しています。



クリタの研究開発の特長は、現場・現物・現実という「3つの現」を重視する3現主義にあります。研究室内での試験・研究だけではなく、お客様の現場で効果を検証し、新たな商品やサービスをつくり上げています。近年、お客様のニーズは多様化しているだけでなく、よりスピードが求められています。お客様のニーズを的確に先取りし、ニーズに合致した新商品・新技術をいかにスピーディーに開発していくかが、研究開発活動の重要な課題となっています。先端技術情報に関しても、学術機関やお客様との交流を通じて、常にアンテナを張り巡らし、お客様のニーズを先取りした提案を心掛けています。クリタグループとして総勢約300名体制で、開発から現場の技術サポートまで、「水」を核とした幅広い分野への研究に取り組んでいます。

気候・風土の異なる世界のさまざまな地域に最適な水処理を

海外市場の拡大においては、地域や場所ごとに「水処理薬品」「水処理装置」「メンテナンス」の3つの機能を組み合わせ、より最適な水処理を提案することが重要な鍵となります。世界全体で見れば、産業の水として利用できる水は限られています。そして、地域によって水質も異なれば、法規制も異



クリタグループの研究開発の中核となるクリタ開発センター（栃木県下都賀郡野木町）

なります。しかしながら、水処理自体は国内も海外も、原理は同じです。クリタは、これまでに培った豊富な知見とともに、風土や文化が異なる海外においても最適なソリューションを提供していきます。

競争優位性を高める基盤技術のさらなる強化

クリタには、水処理に欠かせない膜分離、生物処理、水処理薬品用ポリマーやイオン交換などの基盤技術があります。現状の技術の改良・改善にとどまるような研究開発だけでは、将来に向けて競争優位性を発揮できなくなる可能性があります。そこでクリタは、長期間のロードマップを作成し、中長期的な観点から、必要な要素技術や解明すべき機構を取り上げ、強みである基盤技術のさらなる強化に取り組んでいます。そして、この基盤技術研究の成果を、技術優位性の高い先進的かつ独創的な商品開発につなげていくことを目指しています。

クリタらしい研究開発で新市場の開拓を

「“水”を究め、自然と人間が調和した豊かな環境を創造する」を企業理念とするクリタグループでは、水、食糧、そしてエネルギーの供給という人類共通の課題に対して、解決策を見つけることが使命だと考えています。たとえば食糧問題では、安全かつ安心な作物の収穫のために土壌や微生物に着目したアプローチや水の成分分析から収穫量を増やす開発、エネルギー分野では廃棄物をエネルギーへ転換させるなど、新たな事業領域の創造に積極的に取り組んでいます。また、水の新たな可能性を追求して、独立行政法人 宇宙航空研究開発機構（JAXA）と共同で、宇宙ステーション向けの「将来型水再生システム」の研究をスタートさせています。



出典：JAXA/NASA

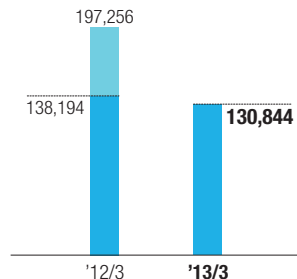
連結業績ハイライト

受注高

130,844 百万円

(百万円)

■ 通期
■ 第3四半期

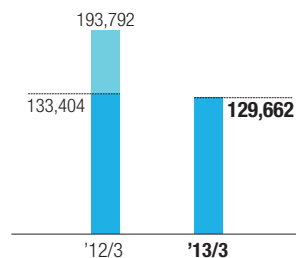


売上高

129,662 百万円

(百万円)

■ 通期
■ 第3四半期



要約貸借対照表

(百万円)

2012年12月31日現在

流動資産	137,191	(△ 7,794)	流動負債	31,527	(△10,831)
			固定負債	19,570	(+ 789)
固定資産	115,876	(△10,280)	純資産	201,969	(△ 8,033)
			総資産	253,067	(△18,074)

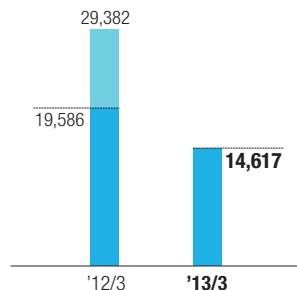
※()内は2012年3月末と比較した増減を表示しています

営業利益

14,617 百万円

(百万円)

■ 通期
■ 第3四半期

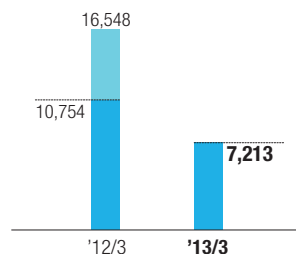


四半期(当期)純利益

7,213 百万円

(百万円)

■ 通期
■ 第3四半期

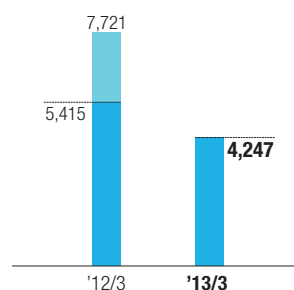


設備投資額(有形固定資産)

4,247 百万円

(百万円)

■ 通期
■ 第3四半期

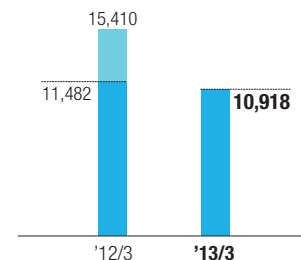


減価償却費(有形固定資産)

10,918 百万円

(百万円)

■ 通期
■ 第3四半期



※グラフの金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています

※グラフの金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています

セグメント別業績ハイライト

水処理薬品事業

受注高・売上高については、国内では紙・パルプ向けプロセス薬品やごみ焼却炉向け薬品が増加しましたが、お客様工場の統廃合や操業停止の影響を受け、主力の冷却水薬品や排水処理薬品が減少しました。海外では、景気低迷が続く欧州で減少したものの、中国やタイを中心にアジアで堅調に推移しました。



この結果、このセグメントの受注高は前年同期比1.1%減、売上高は同0.1%増、営業利益は同9.2%減となりました。

水処理装置事業

電子産業分野では、国内におけるメンテナンス・サービスがお客様の生産設備の再編や操業度の低下などにより、受注高・売上高ともに減少しました。超純水供給事業は契約内容を一部変更した案件があり減少しました。海外においては、半導体・液晶工場向けに受注が増加しました。

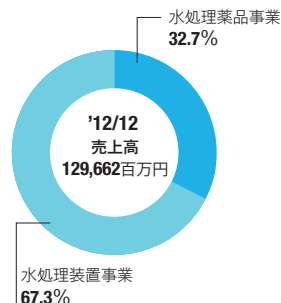
一般産業分野では、受注高については、震災復旧関連需要の一巡などにより、電力向け水処理装置とメンテナンス・サービスが減少しました。売上高については、電力向け水処理装置が工事の進捗に伴い増加しました。

この結果、このセグメントの受注高は前年同期比7.2%減、売上高は同4.2%減、営業利益は同34.8%減となりました。

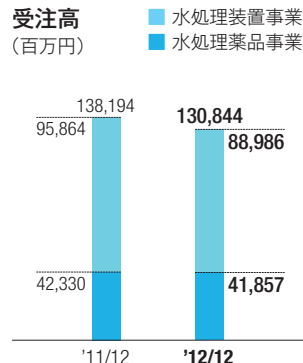


セグメント別業績の推移

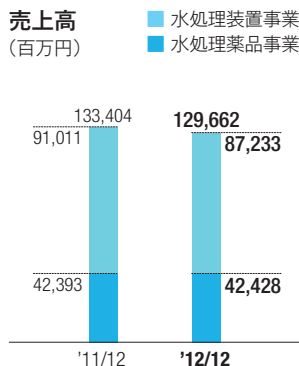
売上高構成比率



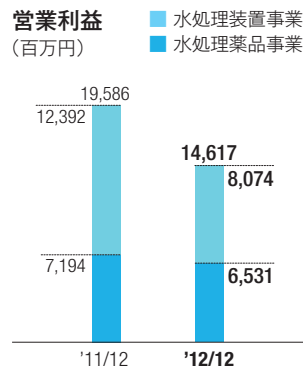
受注高 (百万円)



売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)



※グラフの金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています
※営業利益合計は、「消去又は全社」を調整の上表示しています

詳細は当社ホームページでご確認ください

URL <http://ir.kurita.co.jp/>

栗田工業 IR

検索

※Yahoo! JapanやGoogle™などの検索サイトからアクセスすることができます



特集は裏面に掲載しています